

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ぱれっと (児発)		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 16日	～	R8年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R8年 2月 9日	～	R8年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月1回の療育参観や年2～3回の親子レクリエーションを通して、保護者が子どもの様子を継続して見られる機会を大切にしています。 保護者同士の自然な交流が生まれる場にもなっています。	参観や親子活動の内容・流れを事前に共有し、当日は保護者同士が話しやすい雰囲気づくりに配慮しながら進行しています。また、子どもの様子や成長ポイントを伝えたり、写真・活動記録・インスタを活用して家庭でも様子が分かるよう工夫しています。さらに、親子レクリエーションでは保護者同士が自然に交流できる場となり、普段関わる機会が少ない方同士がつながるきっかけにもなっています。	保護者がより参加しやすいよう、参観日や親子活動の実施方法や日程を柔軟に検討し、家庭で活かせる情報も積極的に共有してまいります。また、兄弟児も参加しやすい機会づくりを進めるとともに、卒業児を行事に招くなど継続したつながりを大切に、保護者同士が気軽につながる交流の場も設けながら、家庭と事業所が一緒に子どもの成長を支えられる環境をさらに整えてまいります。
2	未就学児の発達段階に合わせて小グループを設定し、それぞれに合った療育内容を提供しています。 一人ひとりの成長に合わせた支援を行うことで、無理なく取り組める環境を整えています。	公園遊びや運動プログラムを通した粗大運動に加え、指先を使う知育教材や微細運動にも取り組み、発達段階に合わせて無理なく参加できるよう活動内容を調整しています。また、活動前後には職員同士で子どもの様子を共有し、支援のねらいや関わり方をそろえることで、安定した環境で過ごせるよう工夫しています。	子どもの成長に合わせて活動内容を見直しながら、より多様な遊びや運動の経験ができるようプログラムの幅を広げてまいります。また、集団での関わりを通して他児とのやり取りや社会性が育つよう配慮しつつ、個別の様子を職員間で継続的に共有し、支援のねらいや関わり方をさらにそろえることで、一人ひとりが安心して取り組める環境づくりを進めてまいります。
3	地域には児童センターや公民館、市立図書館などの施設があり、これらの地域資源を積極的に活用しながら活動を行っています。身近な地域環境を取り入れることで、子どもたちがさまざまな経験に触れられる機会づくりにつなげています。 また、こうした地域での経験を重ねることで、家庭や地域社会へ自然に移行できる力が育つよう支援しています。	土曜日や長期休みの期間を活用し、地域の児童センターや学童との交流を定期的に行っています。児童センターの職員や学童の子どもたちとも顔や名前を覚えてもらえる関係ができ、地域の中で自然に関わりが広がる機会につなげています。こうした交流を継続しながら、地域とのつながりを大切に、子どもたちが地域の中で安心して過ごせる経験を積めるよう取り組んでいます。	職員同士で定期的振り返りを行い、子どもたちへの支援の成果を共有しながら、より良い関わり方を常に検討してまいります。あわせて、保護者や地域の方々との連携も深め、地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちが地域の中で安心して過ごせる経験をさらに広げていけるよう取り組みを進めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援が事業所内での相談援助にとどまっておらず、保護者向けの研修やペアレントトレーニングなど、外部と連携した学びの機会を十分に設けられていないことが課題となっています。そのため、保護者が子どもの特性理解や関わり方を深める機会が限定されており、家庭との連携をより強化していく必要があります。	保護者との定期的な面談に加えて、保護者同士が学び合える機会の充実を進めていく必要があります。しかし、年間を通して療育参観を設定しているものの、保護者の仕事の都合により参加が難しいケースもあり、十分な参加機会を確保するための日程調整に課題が残っています。	より多くのご家庭が参加しやすいよう、面談や療育参観、相談の機会を柔軟に設定し、早めに周知することで保護者がスケジュールを調整しやすい環境づくりを進めてまいります。また、研修会の内容を資料として共有するなど、保護者が学びを得られる工夫も取り入れてまいります。さらに、保護者が気軽に話し合える場を設けることで、情報共有や支援の幅を広げ、家庭と事業所が一緒に子どもの成長を支えられるよう取り組んでまいります。
2	地域とのつながりは少しずつ広がっていますが、関われる施設や機会に限られる日もあり、継続して交流できる仕組みづくりにはまだ課題があります。子どもたちが地域の中でさまざまな経験ができるよう、今後も連携の幅を広げていく必要があります。	利用できる地域施設に限られているため、交流先が固定化しやすく、活動の幅が広がりにくい状況があります。その結果、継続的で多様な地域交流の仕組みづくりが難しくなっており、連携の広がりに課題が生じています。	地域とのつながりをさらに上げられるよう、新しい施設や団体との交流も少しずつ増やしていきたいと考えています。また、これまで関わってきた施設とも継続して交流できるよう、スケジュールを調整しながら取り組みを進めてまいります。子どもたちが地域の中で多様な経験を積めるよう、無理のない範囲で連携の幅を広げていくことを目指します。
3	産休・育休や人事異動などにより職員体制が変動した時期があり、支援方法の統一や情報共有に時間を要する場面がありました。新しい職員への引継ぎや、子どもたちとの関係づくりにも一定の時間が必要となり、安定した支援体制の維持に課題が生じました。	産休・育休や人事異動などによる職員体制の変動が続いたことで、支援方法の統一や情報共有に時間を要する場面がありました。新しい職員への引継ぎや、子どもたちとの関係づくりにも一定の時間が必要となり、安定した支援体制を維持するための仕組みづくりが課題となっています。	職員体制が変動した場合でも安定した支援が継続できるよう、職員間での定期的な情報共有やケース確認を徹底してまいります。また、引継ぎをより丁寧に行い、新しい職員がスムーズに支援に参加できる体制を整えます。子どもたちが安心して過ごせるよう、チームで連携しながら支援方法の統一と支援力の向上に取り組んでまいります。